



特別養護老人ホームみちのく荘

# まるめる通信

【まるめる通信 / 第96号】

発行日 / 2013年 8月 25日  
発行 / 青森社会福祉振興団  
十二林みちのく荘 0175 (23) 1600  
金谷みちのく荘 0175 (23) 0781  
みちのくクリニック 0175 (23) 1171  
脇野沢いこいの里 0175 (31) 5611  
Eメール / marumelo@michinokuso.or.jp

みちのく荘地域ネットワーク

## みちのく荘メディカルケアセンター事業開始！！

むつ市十二林地区に、新たなみちのく荘が誕生しました。

医師や看護師、理学療法士、作業療法士といった医療分野の専門職と、介護福祉士、介護支援専門員などの介護分野の専門職が、みなさんの生活をサポートします。

医療と福祉の「連携」から「融合」へ、みちのく荘は動き出します。



みちのく荘メディカルケアセンター 〒035-0067 青森県むつ市十二林 17-1

●みちのくクリニック(内科・リハビリテーション科)  
TEL/0175(23)1171 FAX/0175(23)1172

●みちのくりハビリテーションセンター(外来・訪問・通所)  
TEL/0175(23)1170 FAX/0175(23)6019

●みちのく訪問看護ステーション  
TEL/0175(23)6000 FAX/0175(23)6019

●みちのく十二林ショートステイ  
TEL/0175(23)1160 FAX/0175(23)0783

みちのくクリニック院長  
川部 汎康

プロフィール / かわべ ひろやす  
大湊高校・弘前大学医学部卒・  
むつ総合病院前副院長・内科部長

特別養護老人ホーム  
みちのく荘物語

### 介護と医療の融合

(東奥日報 / 7月30日、31日掲載)

むつ市の市街地にある特別養護老人ホームみちのく荘。

園長の中山辰巳から、みちのく荘がクリニックを併設すると聞かされた木村マキ子は、

「次のステップへ進める…」と呟いた。深い安堵の色が含まれていた。

みちのく荘は下北郡で最初、県内でも14番目の特別養護老人ホームとして、昭和50年に川内町との境界のすぐ近くに開園した。

木村は開園からの介護スタッフだったが、4年前に副園長として定年を迎えた。

木村の安堵には理由があった。現役の頃、介護を地域に広げる目的で昭和61年に始めた「介護教室」、平成元年に実施した「介護型ヘルパー」のニーズ調査で知った、家族の重い負担、高齢者を覆っていた厚く黒い雲のような不安がようやく解決されるといふ安堵感だった。

当時は「特別養護老人ホーム」は何をする施設なのか、社会的認知はおろか、行政さえ理解できていなかった。市の担当者ですら「寝たきりの人を収容する施設」と説明した。

経営者もそうであったし、職員も同じだ。

何をしてもいいかわからない。だから、どんなことでも一生懸命だった。おむつも自分たちで縫い上げたし、寮母(当時)全員が入居者役と寮母役に分かれて、おむつ交換の練習もした。夜、添い寝もした。

開園から半年すると、入居者の出入りが落ち着きを見た。走り回るだけに思えた寮母は2、3年すると手際よく業務をこなし、さらに5、6年を経たときには、介護しながら職員同士の雑談も増えた。

マンネリ化が始まって、それが事件となった。

開園10年も経った頃、中山が入社した直後に、函館に研修旅行があった。

しかし、施設側の説明を受ける時間にほとんどの職員が遅刻してしまった。

函館の研修先で、遅刻したみちのく荘の職員を厳しく叱責したのは、先方の事務長だった。事務長として同行した中山は、緊張感のない日常を見透かされてしまった、と思った。

青函航路は3時間50分。乗船してすぐに反省会が始まり、あふれるように意見が出た。職員も停滞した職場に失望しながら、何をどうすればいいのかわからなかったのだ。

反省会は介護の見直しにつながった。連日、会議は深夜に及んだ。が、熱気が冷めることはなかった。

夜間入浴、バイキング食、便意の喚起とおむつ外し、レクリエーションによる感情表現。画期的な成果だった。

益城妃富(現・人材部長)は、減塩食で食事管理されていた入居者が印象的だった。バイキング食の漬物を食べるように食べる彼が、数日すると、自分から制限したのだ。

益城は、自由な生活が自己規制を生むことを知った。

県内外の施設が研修に訪れるようにもなった。

これらの取り組みは専門職として誇りとなり、エネルギーとなり、みちのく荘のDNAとなった。

中山は、介護型ヘルパー、通年での訪問入浴、訪問看護と次々に地域に必要とされる事業を進めながら、介護と医療の融合を模索するようになった。

むつ市内の病院は入院施設はあってもベッド数は少ない。在宅での暮らしに、介護も医療も外せない。リハビリテーションも不可欠だ。

ふさわしい人、と推薦された医師がいた。むつ総合病院の副院長、川部汎康(ひろやす)医師だった。直ぐに連絡を取ったが、丁寧に断られた。中山は機会をつくっては、なぜ、介護施設に医療の力が必要なのか、熱心に説いた。

「一緒に頑張りましょう。」

川部医師の15年目の返答だった。職員達は、中山と川部医師との長い交渉を知っていた。中山の報告を受けた職員達の表情が輝いた。

平成25年8月1日、みちのくクリニックは開院する。

やさしい街づくりを応援しています。

水産物・青果物・食肉・冷凍食品等の卸売

有限会社  
**ニッショク**  
NISSYOKU

青森県むつ市大曲二丁目 13-35  
電話 (0175) **22-7222**  
FAX (0175) **22-7081**

コンサート、展示会、会議・研修、料理教室、楽器練習、サークル活動……

様々な用途でお役立てください。

下北文化会館 指定管理者 株式会社 東京堂  
〒035-0072 むつ市金谷一丁目 10-1  
tel 22-8411 fax 22-8414 http://shimobun.com

株式会社 **むつ日産**  
デイズハイウェイスター  
むつ市大字釜名御字川ノ内並木110-4 TEL. 0175-22-2284

快適な環境づくりのお手伝い

○介護用品のレンタル・販売  
(車いす・ベッド・リハビリ機器他)  
○住宅改修

株式会社 **シルバーサービス**  
〒035-0033 むつ市横町 2-9-13  
TEL 0175-22-9511

どなたでも受診できるクリニックです。

### みちのくクリニック

- 診療科 / 内科・リハビリテーション科
- 診療時間 / 午前 8:30 ~ 12:00、午後 14:00 ~ 17:00
- 診療日 / 月曜日～金曜日(水曜午後は訪問診療)
- 休診日 / 土、日、祝日、年末年始(12/29 ~ 1/3)



▲CT、レントゲン、超音波、心電図完備



▲診療室(上) / 処置室(下)  
糖尿病、心房細動の患者さんの管理のための簡易検査器を導入しています。  
健康診断や予防接種も受け付けます。

### みちのく荘 メディカルケアセンター 施設内部紹介

みちのく荘メディカルケアセンターは、1階部分からクリニックとリハビリテーションセンターとなっており、2階部分がショートステイ(短期入所型施設)となっています。  
オープン前の内覧会では300人近いお客様に施設内部を見学いただきました。

- 特別養護老人ホームみちのく荘
- 特別養護老人ホーム金谷みちのく荘
- みちのく金谷総合デイサービスセンター

理学療法士・作業療法士による専門のリハビリを提供します。

### みちのくリハビリテーションセンター

- 営業時間 / 外来・訪問(午前 8:30 ~ 12:00、午後 13:30 ~ 17:00)、デイケア(午前の部 8:30 ~ 12:00、午後の部 13:00 ~ 17:00)
- 営業日 / 月曜日～金曜日 ●定休日 / 土、日、祝日、年末年始(12/29 ~ 1/3)

- 外来リハビリテーション  
みちのくクリニックと連携したリハビリプログラムで、身体機能の維持・回復を目的としたリハビリテーションを提供します。
- 訪問リハビリテーション  
ご自宅へ当施設の理学療法士が伺い、自宅での生活に即したリハビリテーションを提供します。
- デイケアセンター(通所)  
退院後、継続してリハビリが必要な方や自宅で運動能力が落ちてきた方にリハビリテーションを提供します。当デイケアは短時間(午前か午後)のプログラムで行います。トレーニングマシンなど、リハビリ機器も豊富に揃えています。



▲背もたれ付自転車で、楽に足腰をトレーニングすることができます。



▲自力で立つ動作が困難な人への訓練機器です。寝た状態から徐々に起き上がることで立つ感覚を与えます。



▲骨盤の安定を強化したり、下半身の筋力向上を図ります。

関野画伯の版画が鑑賞できます。

### まるめる美術館～関野準一郎記念館～ ●10月オープン予定



まるめる美術館は、青森市出身の版画家である関野準一郎画伯(1914-1988)の作品を常設展示する美術館です。展示する関野画伯の作品の中には、勝子夫人から当法人に寄贈いただいた貴重なものもあります。  
展示は、木版画の他、水彩下絵やコラージュ作品など、時期や企画によって定期的に内容を変更します。  
また展示室出入口付近には、自由にご利用いただける休憩スペースを設けています。

▲みちのく荘メディカルケアセンター1階に併設されます。

介護保険を使い、短期間の介護ケアを受けられる施設です。

### みちのく十二林ショートステイ

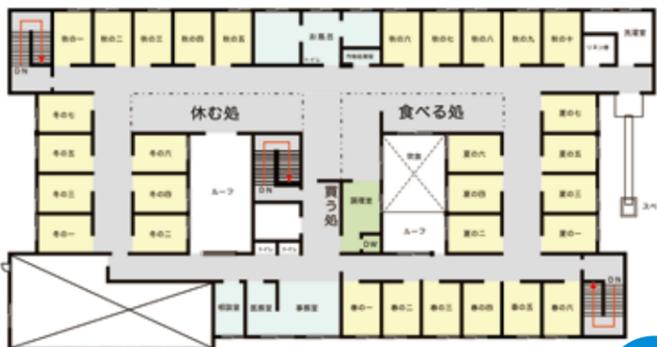
- 居室数 / 30室(全個室)
- 居室設備 / テレビ、冷蔵庫、洗面台、トイレ完備



▲それぞれの居室は、季節をイメージした壁紙で色分けされています。写真は秋色をイメージした居室です。



▲1階にクリニックがあり、安心して過ごせる環境を整えています。旅行や冠婚葬祭などのご都合で、自宅を空ける際にも利用できます。



2階



1階



### 憩いの広場

施設前にある広場の噴水は、夕方の時間帯にライトアップされます。

やさしい街づくりを応援しています。

暮らしの水を安全に。

下北環境保全会  
0120-221834  
横道町1-11-7 22-1834  
22-1806

海・山なくして、下北半島は語れない。

総合食品卸問屋

株式会社 大市  
青森県むつ市大曲二丁目14番33号  
TEL 0175-22-5525  
FAX 0175-22-7172

**法人理事長 挨拶**

8月1日、本法人念願の医療・介護・文化の融合を目指した木造耐火構造2階建(2×4及び2×6工法)の「みちのく荘メディカルケアセンター」がオープンしました。  
1階には、どなたでも受診できる「みちのくクリニック(内科・リハビリテーション科)」の他、運動機能にアプローチする「みちのくりハビリテーションセンター(外来)」と生活機能にアプローチする「みちのくデイケアセンター」があります。また、2階には介護保険の短期入所生活介護利用ができる全30個室の「みちのく十二林ショートステイ」があります。  
さらに、1階には10月のオープンを目指して青森市出身の著名な版画家である関野準一郎画伯の作品を常設展示した「まるめる美術館」が併設される運びとなっております。  
これもひとえに青森県、むつ市その他関係者各位のご支援によるもので、心からお礼申し上げます。  
複合型施設「みちのく荘メディカルケアセンター」を通して地域社会の医療・福祉・文化に貢献していきたいと考えております。今後も変わらぬ市民のみなさまからの温かいご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。  
社会福祉法人 青森社会福祉振興団  
理事長 建部玲子